

谷口 茉優 Mayu Taniguchi

2021年6月15日 インタビュアー：乙戸将司、編集：栗原李佳・櫻井莉菜



(写真上・右上) 学部卒業制作『中立のない場所で』

名前、出身地、出身学部を教えてください。ただいてもよろしいですか。

谷口茉優です。岡山県出身で、学部は秋田公立美術大学のビジュアルアーツ専攻に所属しました。

現在の活動や研究テーマについて、お話いただいてもよろしいですか。

現在、「地域に擬態するアートプロジェクトの可能性について」という研究テーマで、アートプロジェクトの意義や、可能性について研究しています。「地域に擬態するアートプロジェクト」というのは、自分が新しく言葉として定義していきたいと思っているものなんです。地域の基盤とか社会のシステムの歪みを汲みとりながら、この社会に擬態していくような活動のことで、さらにそれをアート活動と名乗らず取り組んでいる活動を指しています。事例として様々な活動を取材をしていて、そこで面白いと感じたことなどを拾い上げて、整理をしています。そこでの共通点として、アーティストではない人たちが、その場所に偶然居合わせるとい形で現れて、出会うことができ、表現を始めるという共通点

があるなと思っていて。そこが、自分でも一番興味を持ってやっているところですね。

秋田に来た経緯や秋美の大学院に進学した理由を教えてください。

私は内部進学なんです。この大学院に進学した理由は、専攻が一つだけであることが一番大きいんです。アートマネジメントを勉強しようと思って入学したので、アーティストやキュレーションを勉強しに来た人たちが同じ授業を受けて、同じプロジェクトに取り組んでいくカリキュラムがより実践的かなと思って入ったというのが、一番大きい動機だったと思います。OB、OGの方々から、異なる領域の人といかに活動を進めていくかというところでもいつも議論になって苦労したということもよく聞いていたので、その点はすごい面白そうだなと思って入学しました。

学部ではどのようなことをしていましたか。

学部では、あまりアートマネジメント



(写真上) 修了生及び修士課程有志と共に企画・運営・管理するオルタナティブスペース「オルタナス」



谷口 茉優 Mayu Taniguchi

プロフィール

1998年 岡山県生まれ。
2020年 秋田公立美術大学美術学部美術学科ビジュアルアーツ専攻を卒業。
現在は、同大学大学院複合芸術研究科に在学中。(修士課程2年生)

トやアートプロジェクトに興味はなく、ずっとインスタレーション系の作品を制作をしていました。現在の研究テーマのきっかけとなったのは、卒業制作のときに、フィールドワークをメインに作品を制作したのが大きいかと思います。それが、自分が住んでいる近所にあった一つの空き地を一年間リサーチして、その空き地で自分が見て思ったことや、周辺の人に取材をしたり、ときにはスケッチなどをしていく中で感じたことを、多角的な視点で捉えてそれを空間におこすというものを作ったんですね。制作した空間の位置付けとしては、リサーチした空き地と鑑賞者の間にある媒介、橋渡しの役割をする仮想的な空間ということを目指していました。その空き地自体を作品として、インスタレーションの空間を、作品を見るための媒介みたいな感じで、ずっと考えてたんですが、そういう中で媒介とか橋渡しというワードが、自分の中ではずっと大事になっていました。その流れで、アートと社会を繋ぐ役割と言われているようなアートマネジメントに興味を持っていったかなというのがあります。

今後の活動・展望について教えてください。ただけますか。

の人はあまり良く思っていないというか、あまりいいイメージを持っていないかだったんです。そういう地域の関係に目を向けていったときに、そういう人たちに自分の作品を見てもらいたいなと思っていたことが、モチベーションの一つとしてずっとありました。しかし、結果として展示をしたときに、来る人があまり目指していた相手とはちょっと違っていたりとか……。新聞に取り上げてもらえたときも、美大生が空き地問題を扱ったみたいな感じで終わってしまっ。それを受けて、自分が作品を作って見せるというよりは、あの時に見てほしかったような人たちが偶然にもふらっと入って出会うことができ、その人たち自体が何かを始めることに意味があるんじゃないかなと、そういう場所を作っていくのが、きっかけとしてあります。その場所作りの手立てとしても、アートマネジメントの能力は必要だと感じ、大学院に進学しようと思いました。